

令和元年（2019年）度 第2回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会 記録

【日 時】令和元年（2019年）10月19日（土）10：00～12：00

【場 所】大阪府立西成高等学校 多目的室A

【出席者】（会長）西田芳正委員・（副会長）高見一夫委員・赤坂寛臣委員・田中俊英委員・寺嶋公典委員
堂上勝己委員・林美香委員

【内 容】

1. 校長挨拶
2. 報告
 - ① 令和2年度 西成高校アドミッションポリシーについて
 - ② ロードマップの進捗状況について
3. 議事
 - ① 「府立高等学校進路保障機能充実」支援事業について
 - ② 働き方改革 現場チームの取組みについて
4. 閉会の挨拶

【各委員からの主な意見等】

- ・アドミッションポリシーに、西成差別の問題もあつたり、障がいのある生徒も多数入学してくるということもあるので、人権感覚みたいなのところも入れたらどうか。
- ・インターンシップで我が社に11人が4回ぐらいに分かれて来てくれた。一度に3人とか来るのではなくて、1人ずつ行きながら回数を増やした方が、自立という部分ではいいと思う。当然、受け入れ企業をもっと増やさないダメだし、3日間がいいのかどうかということと、我々として本当に効果的なことができたのかどうか判断が結構難しいところである。
- ・2年間やってきたインターンシップの取組みは、システム化されてきているので、広げていくとは可能だと思う。企業とのつながりやコミュニケーションが、やはり時間の制約があつて難しいと思うので、そのあたりをお手伝いしていきたい。
- ・物づくりで、自動車を自動車メーカーがすべてを作っているわけではなく、サプライチェーンがいっぱい繋がった中でできていること。そのこと自体を知らない子どもも多いので、社会の仕組みについて教えることが必要である。
- ・定着支援について、引きこもらせない、潜在化させないというのに役立つのは、ソーシャルワーカーとキャリアカウンセラーである。これをうまく連動させると先生たちの負担も減るはずである。SSWを活用し、個別のソーシャルワークを虐待PTSDと今後のキャリアと生活支援と三つ巴で考えていく必要がある。
- ・大学と連携して発達障がい職場でいかに支えるかという研究会をずっとやってきている。1年生のやはり早い段階からサポートをしていくというのが、「すってぷルーム」でやろうとしているアルバイト支援である。今、全生徒を相手にするところまでは到底できないが、少しずつでも事例研究をしていって、学校のノウハウにしてほしい。
- ・教員の時間外労働は、生徒対応や保護者対応のところが特徴やと思う。これは究極的には文科省の仕事で、ソーシャルワーク教師がやっぱり必要であると思う。ソーシャルワーク教師は授業数を劇的に減らして、もっと逆に言うと授業だけをやる先生とかスペシャリストに変えていかないと、教員の長時間勤務は結構限界にきていると思う。
- ・大変な長時間労働を必要とする学校とそうでない学校とがあると思う。一律に議論をするのではなく、教育の質を担保しながら先生方の長時間労働をどう減らしていくのか。賃金を厳しい学校の場合には割り増しにするとかで、実際に成果をあげている国もあると聞いている。実態に即した議論が今とても必要なのではないか。
- ・地域の中学校で今、放課後に生徒向けに出前授業で人権学習をやらせてもらっている。回を積み重ねていく中で、手ごたえを感じていて西成高校でも可能かどうか議論をさせてほしい。

【今後の予定】

○第3回：2月1日（土）13：00～15：00（場所：大阪府教育センター 会議室）